

CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|--------------------------------------|--------|----------------|
| 建物名称 | (仮称)株式会社NTT西日本アセット・プランニング貸倉庫・事務所新築工事 | 階数 | 地上3F |
| 建設地 | 福岡県福岡市博多区豊1丁目264-1 | 構造 | S造 |
| 用途地域 | 準工業地域、防火地域指定なし | 平均居住人員 | 50人 |
| 地域区分 | 7地域 | 年間使用時間 | 5,110時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 事務所、工場 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2023年2月 予定 | 評価の実施日 | 2022年5月16日 |
| 敷地面積 | 2,943㎡ | 作成者 | 北川 貴士 |
| 建築面積 | 1,858㎡ | 確認日 | 2022年5月16日 |
| 延床面積 | 5,312㎡ | 確認者 | 北川 貴士 |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.4

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.9

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|--------------|--|--|
| 総合 | <ul style="list-style-type: none"> ・利便性の良い土地を効率良く利用できる様考慮した。また宅配車とセンターを利用するお客様の動線が被らない様に動線計画を行った。太陽光発電設備を計画することで環境に配慮した計画としました。 | その他 |
| Q1 室内環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・内装材には化学汚染物質を含む材料を使用せず室内環境の向上を行った。 ・F☆☆☆☆や既成対象外の材料を採用、換気性能の確保により、空気環境に配慮する。 | Q3 室外環境(敷地内) |
| Q2 サービス性能 | <ul style="list-style-type: none"> ・建物の維持管理に配慮し、耐久性に優れた仕上材を使用した。また、使用者・管理者にヒヤリングを行い使用勝手などの意見を盛り込んだ。 | その他 |
| LR1 エネルギー | <ul style="list-style-type: none"> ・人感センサー制御や長寿命なLED照明の採用により省エネルギー化を図った。 ・空調エリアは断熱材の施工による外皮性能の向上を図った。 | LR3 敷地外環境 |
| LR2 資源・マテリアル | <ul style="list-style-type: none"> ・節水対応型便器を採用した。また現場にてプラスターボードの加工が少なくなるように倉庫壁は極力、定尺ものが利用できる寸法となる様に配慮した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化の原因となる施設運用エネルギーの削減を図った。 ・建物の長寿命化によりLCCO₂排出率を削減する事で、地球温暖化防止に取り組む。 |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される